

烟草商

浩然の氣を養ふ、略○中其なす所によりては、害ありとのみもいひ難かるべし、今時の人さのみ好まざるも、煙管の一具不揃は、事闕たる如く思ふより、つひに吞習ひて側をはなたす、されば若年よりよくいまして吞さざらしむべし、

〔目ざまし草〕考證雜話

近頃ある人の話に、越後出雲崎、天正十七八年の頃の檢地帳を見つるに、た。ば。こ。や。何某といへる名を載せたり、されば古き事なりといひき、

〔人倫訓蒙圖彙四〕碧蓑屋タマコヤ 丹波吉野高崎新田、其外國々のたばこをかい、これをあきなふ、刻師此所にてかふ、きざみは大津柴屋町よりはじめしとかや、駒臺やあり、庖丁は堺よりいづる、黒うち三文字石わりよし、代二奴なり、

〔我衣〕貞享年中迄、刻多葉粉、見世賣計リニテ、世利ウリナシ、葉烟草ヲ調へ、手前ニテ刻ム、ナリ、然レドモ若キ女中ナドノ類ハ、ヤニ深キヲキラヒ、刻ミタバコヤニテ、色合キナル和ラカナルヲ調へノミタリ、元祿年中ヨリ、刻烟草セリ賣出ル、箱圖ノ如シ、略○圖 夫ヨリ寶永年中ニ至テ、世利箱丁寧ニ致ス、

其後元文中、神田鍋町ニ、叶ヤト云、刻多バコヤ出ル、十餘人切子ヲカ、へ、カツギ荷、六七荷出ス、江戸中ヲ賣弘メタリ、此時ヨリカツギ荷始ル、

寶曆年中ニ至テ、スベテ刻タバコヤ、ニナヒ、箱ニナル、

〔塵塚談上〕ガチャ／＼多葉粉賣の事、我等幼年頃は、寶曆○藥簞筒のやうなる箱に引出しを附けて、引出しの中に仕切りを入、二行に刻多葉粉を入、蕨拳の鑲を引出し、毎に附、肩へかたかけにして賣歩行けり、鑲がガチャ／＼と鳴により、其音を聞て呼入かひけるなり、此箱にて商ふもの、五十ヶ年以前を絶たり、